

Title	令和元年度 退職教員略歴・主要業績
Author(s)	
Citation	大阪大学大学院文学研究科紀要. 2020, 60, p. 185-226
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/76055
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

令和元年度 退職教員略歴・主要業績

あらかわ
荒川 まさはる
正晴 教授 世界史講座（東洋史学）

かとう
加藤 まさはる
正治 教授 言語生態論講座
（言語生態論）

むらた
村田 みちひと
路人 教授 日本史講座（日本史学）

わだ
和田 あきお
章男 教授 西洋文学・語学講座
（フランス文学）

荒川正晴教授 略歴・主要業績

昭和30年1月9日 東京都渋谷区幡ヶ谷に生まれる

学歴

昭和54年3月 早稲田大学第一文学部卒業
 昭和54年4月 早稲田大学大学院文学研究科東洋史学専攻修士課程入学
 昭和56年3月 同上修了（文学修士）
 昭和56年4月 早稲田大学大学院文学研究科東洋史学専攻博士課程進学
 昭和61年9月 同上単位取得満期退学
 平成20年8月 博士（文学）（大阪大学）の学位 取得

職歴

平成8年4月 大阪大学文学部助教授（平成13年3月まで）
 平成13年4月 大阪大学文学研究科教授（～現在に至る）
 平成17年4月 公益財団法人 東洋文庫 研究員（客員）（～現在に至る）
 令和2年3月 大阪大学退職（予定）

受賞

昭和61年12月 流砂海西奨学会賞
 平成22年1学期 大阪大学共通教育賞

学会等役員

内陸アジア史学会 監事（平成6年11月～平成25年3月）
 副会長（平成25年4月～平成29年3月）
 会長（平成29年4月～令和2年3月）
 東方学会 第2期学術委員（平成25年6月～平成27年6月）
 第2期「東方学」査読委員
 第5期学術委員（令和元年6月～現在）
 第5期「東方学」査読委員
 日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員 平成12年1月～12月
 平成20年1月～平成21年12月
 平成29年4月～平成31年3月

新潟大学 人文学研究科プロジェクト外部評価委員（平成24年1月）

主要業績

I. 著書・編著（*は共著・共編を示す）

2003

01. 『オアシス国家とキャラヴァン交易』（世界史リブレット62）東京, 山川出版社, 2003年12月, 82p.

2010

02. 『ユーラシアの交通・交易と唐帝国』名古屋, 名古屋大学出版会, 2010年12月, 630p.

2014

03. *大阪大学歴史教育研究会（編）『市民のための世界史』吹田, 大阪大学出版会, 2014年4月, 311p.

2016

04. *『シルクロードと近代日本の邂逅－西域古代資料と日本近代仏教』東京, 勉誠出版, 2016年3月, 811p.

2018

05. *『中央ユーラシア史研究入門』東京, 山川出版社, 2018年4月, 413p.

II. 研究論文・概説論文

1982

01. 「唐代敦煌に於ける糴買について——ペリオ三三四八号文書を中心として——」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』別冊8, 1982年3月, pp. 191-200.

1983

02. 「麹氏高昌国の官制について」『史観』109, 1983年9月, pp. 29-43.

1986

03. 「麹氏高昌国における郡県制の性格をめぐって——主としてトゥルファン出土資料によ

る——」『史学雑誌』95-3, 1986年3月, pp. 37-74.

04. 「唐代河西の吐谷渾と墨離」『内陸アジア史研究』3, 1986年3月, pp. 50-62.

1988

05. 「唐の中央アジア支配と墨離の吐谷渾（上）—— トゥルファン・アスターナ出土の豆盧軍牒の検討を中心として——」『史滴』9, 1988年1月, pp. 25-48.

1989

06. 「唐の中央アジア支配と墨離の吐谷渾（下）—— 主に墨離軍の性格をめぐって——」『史滴』10, 1989年1月, pp. 19-42.
07. 「唐河西以西の伝馬坊と長行坊」『東洋学報』70-3/4, 1989年3月, pp. 35-69.
08. 「麹氏高昌国の遠行車牛について（1）・（2）—— 「高昌某年伝始昌等県車牛子名及給備文書」の検討を中心にして——」『吐魯番出土文物研究会会報』16, 1989年7月, pp. 77-80；17, 1989年7月, pp. 86-88.

1990

09. 「トゥルファン出土「麹氏高昌国時代ソグド文女奴隷売買文書」の理解をめぐって」『内陸アジア言語の研究』5, 1990年3月, pp. 137-153.
10. 「スタイン将来「蒲昌群文書」の検討—— Ast.Ⅲ.3.07, 08, 037号文書の分析を中心にして——」『西北史地』1990-2, 1990年6月, pp. 23-34.
〔中文訳〕「関于斯坦因《蒲昌群文書》的研究——以Ast.Ⅲ.3.07, 08, 037号文書の分析为中心——」『西北史地』1990-2, 1990年6月, pp. 35-44.（谷祖綱／李桂蘭訳）
11. 「西域出土文書に見える函馬について（上）・（下）」『吐魯番出土文物研究会会報』40, 1990年7月, pp. 215-218；41, 1990年7月, pp. 219-223.

1992

12. 「唐の対西域布帛輸送と客商の活動について」『東洋学報』73-3/4, 1992年3月, pp. 31-63.
〔中文訳〕「唐政府对西域布帛の運送及客商の活動」『敦煌学輯刊』1993-2, 1993年12月, pp. 108-118.（王忻訳, 李明偉校）
〔中文訳〕「関于唐向西域輸送布帛与客商的关系」『魏晋南北朝隋唐史資料』16, 1998年7月, pp. 342-353.（楽勝奎訳, 李少軍校）
13. 「唐代駅伝制度の構造とその運用（I～V・完）」『吐魯番出土文物研究会会報』79, 1992

年 8 月, pp. 1-4 ; 80, 1992年 9 月, pp. 1-8 ; 81, 1992年10月, pp. 1-8 ; 82, 1992年11月, pp. 1-5 ; 83, 1992年12月, pp. 1-6.

1993

14. 「中央アジア地域における唐の交通運用について」『東洋史研究』52-2, 1993年 9 月, pp. 23-51.

1994

15. 「トゥルファンの棉布生産とその流通」長澤和俊（編）『アジアにおける国際交流と地域文化』（平成 4・5 年度科学研究費補助金・総合研究（A）研究成果報告書）東京, 早稲田大学, 1994年 3 月, pp. 56-59.
16. 「トゥルファン出土漢文文書に見える ulay について」『内陸アジア言語の研究』9, 1994年 6 月, pp. 1-25.

〔中文訳〕「關於吐魯番出土漢文文書中的 ulay」胡厚宜等（編）『出土文献研究』3, 北京, 中華書局, 1998年10月, pp. 198-211. (李德範／孫曉林訳)

17. 「唐代コータン地域の ulay について —— マザル = ターク出土, ulay 関係文書の分析を中心にして ——」『龍谷史壇』103/104, 1994年12月, pp. 17-38.
- 〔中文訳〕「唐代于闐的“烏駱” —— 以 tagh 麻扎出土有関文書的分析為中心 ——」『西域研究』1995-1, 1995年 3 月, pp. 66-76. (章瑩訳)

1995

18. 「北庭都護府の輪台县と長行坊 —— アスターナ五〇六号墓出土, 長行坊関係文書の検討を中心として ——」小田義久先生還暦記念事業会（編）『小田義久博士還暦記念東洋史論集』京都, 龍谷大学東洋史学研究会, 1995年 7 月, pp. 93-125.

〔中文訳〕「北庭都護府の輪台县和西州長行坊 —— 以対阿斯塔那五〇六号墓所出与長行坊有関文書の討論為中心 ——」『吐魯番学研究』2006-1, 2006年 6 月, pp. 132-148. (伊磊訳, 于志勇校)

1997

19. 「クチャ出土「孔目司文書」攷」『古代文化』49-3, 1997年 3 月, pp. 1-18, 2pls.
20. 「唐代トゥルファン高昌城周辺の水利開発と非漢人住民」森安孝夫（編）『近世・近代中国および周辺地域における諸民族の移動と地域開発』（平成 7・8 年度科学研究費補助金・

基盤研究 (B) (2) 研究成果報告書) 豊中, 大阪大学, 1997年3月, pp. 49-64.

21. 「唐の州県百姓と過所の発給——唐代過所・公驗文書割記(1)——」『史観』137, 1997年9月, pp. 4-18.
22. 「唐帝国とソグド人の交易活動」『東洋史研究』56-3, 1997年12月, pp. 171-204.
〔中文訳〕「唐帝国和粟特人的交易活動」『敦煌研究』2002-3, 2002年6月, pp. 81-91. (陳海濤訳, 楊富学校)

1998

23. 「北朝隋・唐代における「薩寶」の性格をめぐって」『東洋史苑』50/51, 1998年1月, pp. 164-186.

1999

24. 「ソグド人の移住聚落と東方交易活動」樺山紘一他(編)『岩波講座世界歴史 15商人と市場』東京, 岩波書店, 1999年3月, pp. 81-103.

2000

25. 「唐朝の交通システム」『大阪大学大学院文学研究科紀要』40, 2000年3月, pp. 199-331.
26. 「ヤールホト古墓群新出の墓表・墓誌をめぐって」『シルクロード学研究紀要』10, 2000年11月, pp. 160-170.

2002

27. 「魏晋南北朝隋唐期の通過公証制度と商人の移動」中国史学会(編)『中国の歴史世界——統合のシステムと多元的發展——』東京, 東京都立大学出版社, 2002年2月, pp. 337-349.
28. “The Transit Permit System of the Tang Empire and the Passage of Merchants.” *Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko* 59, 2002/3, pp. 1-21.
〔中文訳〕「唐過所与貿易通道」『吐魯番学研究』2005-1, 2005年, pp. 40-49. (歐陽暉訳, 朱新校)
29. 「長行馬文書攷——大英図書館所蔵文書を中心として——」池田温(編)『日中律令制の諸相』東京, 東方書店, 2002年3月, pp. 379-405.

2004

30. 「トゥルファン漢人の冥界観と仏教信仰」森安孝夫（編）『中央アジア出土文物論叢』京都, 朋友書店, 2004年3月, pp. 111-126.
31. 「道路・国家与商人」『読書』2004-7, 2004年7月, pp. 160-165.
32. 「唐代前半の胡漢商人と帛練の流通」『唐代史研究』7, 2004年8月, pp. 17-59.
33. “Passports to the Other World : Transformations of Religious Beliefs among the Chinese in Turfan (Fourth to Eighth Centuries).” D. Durkin-Meisterernst, S. Raschmann, J. Wilkens, M. Yaldiz & P. Zieme (eds.), *Turfan Revisited -The First Century of Research into the Arts and Cultures of the Silk Road*, Berlin: Dietrich Reimer Verlag, 2004, pp. 19-21, 1pl.

2005

34. 「唐代粟特商人与漢族商人」『粟特人在中国——歴史・考古・語言的新探索——』（法国漢学10）北京, 中華書局, 2005年12月, pp. 101-109.
35. “Sogdian merchants and Chinese Han merchants during the Tang Dynasty.” In: É. de la Vaissière and É. Trombert (eds.), *Les Sogdiens en Chine*, Paris: École française d'Extrême-Orient, 2005, pp. 231-242.

2006

36. 「北朝隋唐初の在俗仏教信徒と五道大神」加地伸行博士古稀記念論集刊行会（編）『中国学の十字路——加地伸行博士古稀記念論集——』東京, 研文出版, 2006年4月, pp. 509-523.

2007

37. 「遊牧民とオアシス民の共生関係とは何か——西突厥と魏氏高昌国のケースから——」桃木至朗（編）『近代世界システム以前の諸地域システムと広域ネットワーク』（平成16～18年度科学研究費補助金・基盤研究（B）研究成果報告書）豊中, 大阪大学, 2007年3月, pp. 28-48.
38. 「魏氏高昌国の王権とソグド人」記念論集刊行会（編）『福井重雅先生古稀・退職記念論集 古代東アジアの社会と文化』東京, 汲古書院, 2007年3月, pp. 337-362.

2008

39. "Sogdians and the Royal House of Ch'ü in the Kao-ch'ang Kingdom." *Acta Asiatica (Bulletin of the Institute of Eastern Culture)* 94, 2008/2, pp. 67-93.
40. 「遊牧国家とオアシス国家の共生関係——西突厥と魏氏高昌国のケースから——」『東洋史研究』67-2, 2008年9月, pp. 34-68.

2009

41. 「唐代中央アジアにおける帖式文書の性格をめぐって」土肥義和（編）『敦煌・吐魯番出土漢文文書の新研究』東京, 東洋文庫, 2009年3月, pp. 271-291.
42. 「魏氏高昌国の灌漑水利と税役」『西北出土文献研究』7, 2009年3月, pp. 19-41.

2011

43. "Aspects of Sogdian Trading Activities under the Western Turkic State and the Tang Empire." *Journal of Central Eurasian Studies* 2, 2011/5, pp. 25-40.
44. 「唐代の交通と商人の交易活動」鈴木靖民／荒井秀規（編）『古代東アジアの道路と交通』東京, 勉誠出版, 2011年7月, pp. 179-190.
45. 「唐の西北軍事支配と敦煌社会」『唐代史研究』14, 2011年8月, pp. 71-98.
46. 「唐代天山東部州府の典とソグド人」森安孝夫（編）『ソグドからウイグルへ——シルクロード東部の民族と文化の交流——』東京, 汲古書院, 2011年12月, pp. 47-66.
〔中文訳〕「唐代天山東部州府的典和粟特人」中国人民大学国学院（主編）『国学的傳承与創新——馮其庸先生從事教學与科研六十周年慶賀學術文集——』下冊, 上海, 上海古籍出版社, 2013年4月, pp. 952-966.
47. 「英国図書館蔵和田出土木簡の再研究——以木簡内容及其性質為中心——」朱玉麒（主編）『西域文史』6, 北京, 科学出版社, 2011年12月, pp. 35-47.（田衛衛訳, 西村陽子／栄新江校）

2013

48. "The Transportation of Tax Textiles to the North-West as part of the Tang-Dynasty Military Shipment System." *Journal of the Royal Asiatic Society* 23-2, 2013/4, pp. 245-261.

2014

49. 「トゥルファンにおけるソグド人」森部豊(編)『ソグド人と東ユーラシアの文化交渉』(アジア遊学175) 東京, 勉誠出版, 2014年8月, pp. 101-118.
50. 「西域長史文書としての「李柏文書」」白須浄真(編)『大谷光瑞とスヴェン・ヘディン——内陸アジア探検と国際政治社会——』東京, 勉誠出版, 2014年9月, pp. 213-234.
51. 「大英図書館所蔵コータン出土木簡の再検討——木簡内容とその性格をめぐって——」『待兼山論叢』(史学篇) 48, 2014年12月, pp. 1-22.

2016

52. 「中国律令制下の交通制度と道路」館野和己・出田和久編『日本古代の交通・交流・情報』東京, 吉川弘文館, 2016年2月, pp. 264-287.
53. 「西突厥汗国のTarqan達官与粟特人」栄新江・羅豊主編『粟特人在中国(上冊)』北京, 科学出版社, 2016年6月, pp. 13-23.
54. “The Silk Road Trade and Traders.” *Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko* 74, 2016/12, pp. 29-59.

2017

55. 「通行証としての公驗と牒式文書」『敦煌・吐魯番文書の世界とその時代』東京, 汲古書院, 2017年3月, pp. 101-114.
56. 「粟特人与高昌国麹氏王室」浙江大学中国古代史研究所ほか(編)『絲路文明』第三輯, 杭州, 2018年9月, pp. 27-42.
57. 「敦煌文書に見る妻の離婚、娘の財産相続」小浜正子ほか(編)『中国ジェンダー史研究入門』京都, 京都大学学術出版会, 2018年2月, pp. 127-134.

2019

58. 「ソグド人の交易活動と香料の流通」『専修大学 古代東ユーラシア研究センター年報』第5号, 2019年3月, pp. 29-48.
59. 「シルクロードの交易と商人」永原陽子(編)『人々がつなぐ世界史』(MINERVA世界史叢書4) 東京, ミネルヴァ書房, 2019年8月, pp. 15-43.

Ⅲ. 雑纂 (研究ノート・調査報告・書評・紹介・翻訳・学界動向など)

1983

01. *山本弘道／荒川正晴「文献案内」加藤九祚／長澤和俊／護雅夫『シルクロード』(読書マップ) 東京, 筑摩書房, 1983年7月, pp. 297-346.

1986

02. [書評]「玉木重輝著『高昌国物語』」『東西交渉』17, 1986年3月, p. 51.
03. [書評]「鄧健吾著『敦煌行』」『東西交渉』19, 1986年9月, p. 42.

1989

04. 「阿斯塔那古墳群墳墓一覽表」『吐魯番出土文物研究会会報』8, 1989年3月, pp. 35-40 ; 9, 1989年3月, pp. 41-44 ; 10, 1989年4月, pp. 45-48.
05. 「哈拉和卓古墳群墳墓一覽表」『吐魯番出土文物研究会会報』11, 1989年4月, pp. 49-52.
06. [学界動向]「1988年の歴史学界——回顧と展望——(内陸アジア1)」『史学雑誌』98-5, 1989年5月, pp. 269-275.
07. [紹介]「候燦「高昌章和十三年朱阿定妻楊氏墓表出土時間・地点与有関問題補論」」『吐魯番出土文物研究会会報』12, 1989年5月, p. 54.
08. [紹介]「王琳「旅順博物館藏新疆出土錢幣」」『吐魯番出土文物研究会会報』12, 1989年5月, pp. 54-55.
09. [紹介]「陳国燦「武周瓜・沙州地区的吐谷渾婦朝事迹」」『吐魯番出土文物研究会会報』13, 1989年5月, pp. 59-60.
10. [紹介]「呉震「吐魯番出土的“敦煌文書”」」『吐魯番出土文物研究会会報』13, 1989年5月, pp. 60-61.
11. [紹介]「王素「吐魯番所出武周時期吐谷渾婦朝文書史実考証」」『吐魯番出土文物研究会会報』13, 1989年5月, p. 61.
12. [紹介]「周偉洲『吐谷渾史入門』」『吐魯番出土文物研究会会報』13, 1989年5月, pp. 61-62.
13. [紹介]「柳洪亮「安西都護府治西州境内時期的都護及年代考」」『吐魯番出土文物研究会会報』13, 1989年5月, p. 62.
14. 「阿斯塔那古墳群墳墓一覽表——スタイン隊発掘墳墓——」『吐魯番出土文物研究会会報』14, 1989年6月, pp. 65-67.
15. [学界動向]「1988年・日本の吐魯番学瞥見」『吐魯番出土文物研究会会報』15, 1989年6

月, pp. 71-74.

16. 「新疆維吾爾自治區古代城址一覽表（Ⅰ）・（Ⅱ）——黃文弼の調査報告を中心として——」『吐魯番出土文物研究会會報』26, 1989年12月, pp. 125-130.; 27, 1989年12月, pp. 131-134.

1990

17. 「阿斯塔那・哈拉和卓古墳群墳墓一覽表」長澤和俊（編）『中央アジア史の再検討——新出史料の基礎的研究——』（昭和63年度科学研究費補助金・総合研究（A）研究成果報告書）東京, 早稲田大学, 1990年3月, pp. 59-87.
〔中文訳〕「阿斯塔那・哈拉和卓古墓群墓葬一覽表」『新疆文物』1992-2, 1992年5月, pp. 93-123.（孟憲実訳, 侯燦校）
18. 〔紹介〕「錢伯泉「高昌国郡县城鎮的建置及其地望考実」」『吐魯番出土文物研究会會報』37, 1990年5月, pp. 193-194.
19. 〔紹介〕「陳国燦「魏晋至隋唐河西胡人的聚居与火祆教」」『吐魯番出土文物研究会會報』37, 1990年5月, pp. 196-197
20. 「新疆維吾爾自治區古代城址一覽表（Ⅲ）——黃文弼の調査報告を中心にして——」『吐魯番出土文物研究会會報』38, 1990年6月, pp. 199-203.
21. 〔紹介〕「程喜霖「烽鋪考」」『吐魯番出土文物研究会會報』45, 1990年9月, pp. 246-247.
22. 〔紹介〕「程喜霖「《唐開元二十一年（733）西州都督府勘給過所案卷》校釈——兼論請過所程序与勘驗過所——」（下篇）」『吐魯番出土文物研究会會報』45, 1990年9月, p. 247.
23. 「古書展に出品された北館文書について」『吐魯番出土文物研究会會報』50, 1990年12月, pp. 276-278

1991

24. 「阿斯塔那・哈拉和卓古墳群墳墓一覽補訂」『吐魯番出土文物研究会會報』53, 1991年1月, pp. 1-4.
25. *吐魯番出土文物研究会（編）『吐魯番出土文物研究情報集録——吐魯番出土文物研究会會報1～50号——』（〔中央ユーラシア諸民族の歴史・文化に関する国際共同研究の企画・立案〕No2）（平成2年度科学研究費補助金・総合研究（B）研究成果報告書）東京, 梅村坦発行, 1991年3月, 284p.
26. 〔紹介〕「姜伯勤「敦煌新疆文書所記の唐代“行客”」」『吐魯番出土文物研究会會報』66,

1991年8月, pp. 5-6.

27. [紹介]「吳震「唐庭州西海峽之置建与相關問題」』『吐魯番出土文物研究会会報』66, 1991年8月, p. 6.
28. 「南疆遺跡參觀報告(1)」』『吐魯番出土文物研究会会報』70, 1991年11月, pp. 1-6.

1992

29. [紹介]「錢伯泉「從祀部文書看高昌麴氏王朝時期的祆教及粟特九姓胡人」』『吐魯番出土文物研究会会報』78, 1992年7月, p. 6.
30. [紹介]「魯才全「唐代前期西州的馱馬馱田馱牆諸問題——吐魯番所出館馱文書研究之二——」』『吐魯番出土文物研究会会報』81, 1992年10月, p. 8.
31. 「南疆遺跡參觀報告」』『内陸アジア史研究』7/8, 1992年10月, pp. 10-20.
32. [翻譯]「楼蘭考古の新収獲」』『内陸アジア史研究』7/8, 1992年10月, pp. 38-40.
33. 「吐魯番・烏魯木齊周辺地域の史跡について」』『内陸アジア史研究』7/8, 1992年10月, pp. 66-93.
34. [紹介]「郭媛「試論隋唐之際吐魯番地区的銀錢」, 林友華「從四世紀到七世紀中高昌貨幣形態初探」, 宋傑「吐魯番文書所反映的高昌物價与貨幣問題」』『吐魯番出土文物研究会会報』83, 1992年12月, pp. 6-8.

1993

35. [紹介]「王永興「吐魯番出土唐天寶四載十一月交河郡財務案殘卷考釈」』『吐魯番出土文物研究会会報』90, 1993年7月, pp. 2-3.
36. [紹介]「程喜霖「《唐垂拱元年(685)康尾義羅施等請過所案卷》考釈」』『吐魯番出土文物研究会会報』90, 1993年7月, pp. 3-4.
37. [紹介]「孫曉林「關於唐前期西州設“館”的考察」』『吐魯番出土文物研究会会報』90, 1993年7月, p. 4.
38. [紹介]「王永興「讀吐魯番文書札記二則」』『吐魯番出土文物研究会会報』90, 1993年7月, pp. 4-5.
39. [紹介]「柳洪亮「高昌碑刻述略」』『吐魯番出土文物研究会会報』90, 1993年7月, pp. 5-6.
40. 「北疆遺跡參觀報告」』『内陸アジア史研究』9, 1993年9月, pp. 24-35.
41. 「トゥルファン漢文文書閲覽雜記」』『内陸アジア史研究』9, 1993年9月, pp. 79-93.

1994

42. [翻訳]「JI = II = チュグイエフスキー「ソ連邦科学アカデミー東洋学研究所所蔵、敦煌写本における官印と寺印」』『吐魯番出土文物研究会会報』98/99, 1994年4月, pp. 1-14.
43. [紹介]「林梅村「粟特文買婢契与絲綢之路上的女奴貿易」』『吐魯番出土文物研究会会報』100, 1994年5月, pp. 6-8.
44. [書評]「山田信夫著, 小田壽典・P. ツィーメ・梅村坦・森安孝夫編『ウイグル文契約文書集成』I・II・III』『史学雑誌』103-8, 1994年8月, pp. 109-119.

1995

45. [学界動向]“Studies on Inner Asia I: The Pre-Mongol Period.” The National Committee of Japanese Historians (ed.), *Historical Studies in Japan (VIII) 1988-1992*, Tokyo: Yamakawa Shuppansha, 1995, pp. 167-173.

1996

46. 「中国主要遺跡ガイド（楼蘭故城・交河故城・高昌故城・アスターナ古墓群・タクラマカン沙漠の石窟寺院）」『しにか』7-1, 1996年1月, pp. 64-73.
47. 「ヤールホト古墓群の墓表・墓誌」長澤和俊（編）『中国新疆・トゥルファン地区の総合的調査』（平成6～8年度科学研究費補助金・国際学術研究中間報告書）東京, 早稲田大学, 1996年8月, pp. 19-27.

1997

48. 「出土史料より見た高昌国の仏教」『季刊文化遺産』4, 1997年10月, pp. 55-58.

1998

49. 「トゥルファン文書を読み解く——文書に見える冥界の姿——」『しにか』9-7, 1998年7月, pp. 58-63.
50. [学界動向]「最近五年(1993～1998)日本の唐代学術研究概況——敦煌・吐魯番学——」『中国唐代学会会刊』9, 1998年11月, pp. 181-197.

2000

51. * 荒川正晴／關尾史郎「トゥルファン出土文書調査記」『唐代史研究』3, 2000年6月, pp. 59-74.

2001

52. [学界動向]「近年の日本におけるトゥルファン研究——漢語文献を中心にして——」
『中央アジア研究』6, 2001年12月, pp. 65-89.

2002

53. 「大谷探検隊とその将来品, 第3部 研究最前線…衣物疏」『本願寺新報』2002年9月1日,
7面.

2003

54. 『トゥルファン出土文書および関連伴出資料の調査』(平成12~14年度科学研究費補助金・
基盤研究(B)(1)研究成果報告書) 豊中, 大阪大学, 2003年3月, 197p.

2004

55. 「コータンの「木ぶり」と「根ばり」」『史滴』26, 2004年12月, p. 1.

2005

56. 「オアシス王国ホータン点描」NHK「新シルクロード」プロジェクト(編)『NHKスペシヤ
ル 新シルクロード2 草原の道——風の民——・タクラマカン——西域のモナリザ
——』東京, 日本放送出版協会, 2005年4月, pp. 208-223.

2006

57. 『東トルキスタン出土「胡漢文書」の総合調査』(平成15~17年度科学研究費補助金・
基盤研究(B)研究成果報告書) 豊中, 大阪大学, 2006年3月, 122p.
58. 「調査の概略とコータン出土新出漢文文書」荒川正晴(編)『東トルキスタン出土「胡漢
文書」の総合調査』(平成15~17年度科学研究費補助金・基盤研究(B)研究成果報告書)
豊中, 大阪大学, 2006年3月, pp. 1-29.

2007

59. "Oasis States and Caravan Trade in Central Asia during Pre-Islamic Times (c.
3-9C)." In: T. Katayama (ed.), *Course Records "History, Manners and Customs, and
Interchange- Asia and Japan-" in the Osaka University Short-term Student Exchange
Program (OUSSEP) 2006 Fall Semester*, Toyonaka: Osaka University, 2007/3, pp.

56-69.

2010

60. 「ソウル, シルクロード博物館参観記」『西北出土文献研究』8, 2010年5月, pp. 95-100.
61. 〔書評〕「李全徳『《天聖令》所見唐代過所の申請与勘驗——以“副白”与“録白”为中心——』」『法史学研究会会報』14, 2010年3月, pp. 116-117.
62. 〔書評〕「楊梅『唐宋宫廷藏氷制度的沿襲与变革——以《天聖令・雜令》宋12条为中心——』」『法史学研究会会報』14, 2010年3月, pp. 128-129.

2011

63. 〔紹介〕「曾布川寛・吉田豊編『ソグド人の美術と言語』」『京都民報』2011年7月31日, 6面.
64. “China’s View of the World.” In: Seija Jalagin, Susanna Tavera and Andrew Dilley (eds.), *World and Global History: Research and Teaching (CLIOHWORLD Reader; 7)*, Pisa: Pisa University Press, 2011/9, pp.59-67.
65. “Xuan-zhuang, Bian-ji and *Da-Tang Xi-yu-ji*.” In: Seija Jalagin, Susanna Tavera and Andrew Dilley (eds.), *World and Global History: Research and Teaching (CLIOHWORLD Reader; 7)*, Pisa: Pisa University Press, 2011/9, pp.151-152.
66. “Du You: The *Tongdian*.” In: Seija Jalagin, Susanna Tavera and Andrew Dilley (eds.), *World and Global History: Research and Teaching (CLIOHWORLD Reader; 7)*, Pisa: Pisa University Press, 2011/9, pp. 153-154.
67. “Seiki no Chizu: Map of China and Westward (8th Century).” Seija Jalagin, Susanna Tavera and Andrew Dilley (eds.), *World and Global History: Research and Teaching (CLIOHWORLD Reader; 7)*, Pisa: Pisa University Press, 2011/9, pp. 187-188.
68. 『東ユーラシア出土文献研究通信』1, 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(A)「シルクロード東部の文字資料と遺跡の調査——新たな歴史像と出土史科学の構築に向けて——」研究グループ, 2011年3月, 103p.

2012

69. 『東ユーラシア出土文献研究通信』2, 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(A)「シルクロード東部の文字資料と遺跡の調査——新たな歴史像と出土史科学の構築に向けて——」研究グループ, 2012年3月, 85p.

70. [学界動向] “Chinese Research on Sources Excavated from Turfan Archeological Sites.” *Asian Research Trends*, New series 7, Tokyo: The Toyo Bunko, 2012, pp. 19–40.

2013

71. 『東ユーラシア出土文献研究通信』3, 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(A)「シルクロード東部の文字資料と遺跡の調査——新たな歴史像と出土史科学の構築に向けて——」研究グループ, 2013年3月, 114p.
72. 「インド・イラン起源の諸宗教と中国」『歴史と地理』664 (世界史の研究235), 2013年5月, pp. 1-13, 1pl.
73. 『ユーラシア東部地域における公文書の史的展開——胡漢文書の相互関係を視野に入れて——』日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(A)「シルクロード東部の文字資料と遺跡の調査——新たな歴史像と出土史科学の構築に向けて——」研究グループ, 2013年9月, 156p.
74. 「ソグド商人と東西交易」岡本隆司(編)『中国経済史』名古屋, 名古屋大学出版会, 2013年11月, pp. 129-130.

2014

75. [Review] “*The Silk Road: A New History*. By Valerie Hansen. New York: Oxford University Press, USA, 2012.” In: *International Journal of Asian Studies* 11-1, Cambridge: Cambridge University Press, 2014/1, pp. 118-120.

加藤正治教授 略歴・研究業績

履歴

- 昭和52年3月 大阪外国語大学外国語学部英語学科卒業
- 昭和52年4月 名古屋大学大学院文学研究科博士前期課程（英文学専攻）入学
- 昭和54年3月 同課程修了
- 昭和54年4月 名古屋大学文学部助手
- 昭和56年3月 同学退職
- 昭和56年4月 甲南女子大学短期大学部英語学科助手
- 昭和57年4月 同学専任講師
- 昭和58年4月 大阪外国語大学外国語学部英語学科専任講師
- 昭和61年9月 ハーバード大学（米国）客員研究員（昭和62年8月まで）
- 昭和63年1月 大阪外国語大学外国語学部英語学科助教授
- 平成4年4月 同学大学院外国語学研究科担当
- 平成8年9月 マギル大学（カナダ）客員研究員（平成9年8月まで）
- 平成9年4月 大阪外国語大学大学院言語社会研究科担当
- 平成12年1月 大阪外国語大学外国語学部地域文化学科北米地域文化専攻教授
- 平成19年10月 大阪大学大学院文学研究科文化動態論専攻言語生態論講座教授
- 令和2年3月 大阪大学定年退職

研究業績等一覧

学術論文

1. “An Inquiry into Ambiguities of English Noun Phrases: On Referentiality, Opacity and Specificity”（単著；修士論文）昭和54年4月.
2. 「左方転位と話題化の派生に関する一試案」（単著）. 『名古屋大学文学部論集』LXXVIII: pp. 157-173. 昭和55年3月.
3. “A Survey of Ambiguities in Noun Phrases”（単著）. *Linguistics and Philology* No.1（荒竹出版）. pp. 148-164. 昭和55年10月.
4. 付帯状況を表わす句についての一試案（単著）. 『名古屋大学文学部論集』LXXIX: pp. 97-110. 昭和56年3月.
5. “On Imperative Sentences: A Historical Study Based on Data from a Selection of Literary Works from England (1650-1900)”（単著）. 『英文学研究』（日本英文学会）第

- 59巻第1号：pp. 99-119. 昭和57年9月.
6. “A Study of Gerundive Nominals in Shakespeare’s Works”(单著). 中野弘三ほか編『言語変化：荒木一雄博士還暦記念論文集』（研究社出版）pp. 196-208. 昭和57年10月.
 7. 「『カンタベリー物語』におけるING形の分析」(单著). 『英米研究』（大阪外国語大学英語研究室）第14号：pp. 29-45. 昭和60年3月.
 8. “On the Structure of Gerunds in Modern English”(单著). *Linguistics and Philology*(英宝社) No.6：pp. 148-166. 昭和61年2月.
 9. 「Gerundの史的解説」(单著). 『英米研究』（大阪外国語大学英語研究室）第15号：pp. 35-44. 昭和62年2月.
 10. 「近代英語の命令文の派生について」(单著). 『英米研究』（大阪外国語大学英語研究室）第17号：pp. 85-100. 平成2年3月.
 11. 「V移動と近代英語の命令文」(单著). 有馬道子ほか編『言葉の構造と歴史：荒木一雄博士古稀記念論文集』（英潮社）pp. 273-285. 平成3年12月.
 12. 「英語の否定文の変遷について」(单著). 『英語圏世界の総合的研究』（大阪外国語大学）pp. 13-22. 平成5年3月.
 13. 「16世紀及び17世紀の英訳聖書の『マタイ伝』にみられる倒置と*There*構文」(单著). 『近代英語の諸相：近代英語協会10周年記念論集』（英潮社）pp. 248-263. 平成5年5月.
 14. 「NegPと英語否定文の変遷」(单著). 『近代英語研究』（近代英語協会）第10号：pp. 65-73. 平成6年6月.
 15. 「否定命令文の変遷に関する一試案：研究ノート」(单著). 『言語の深層を探ねて：中野弘三博士還暦記念論文集』（英潮社）pp. 452-466. 平成8年10月.
 16. 「『欽定訳聖書』に見られる動詞第二位現象について」(单著). 『待兼山論叢』（大阪大学文学会）第43号文化動態論編：pp. 1-8. 平成21年12月.
 17. 「『カンタベリー物語』にみられる否定辞*ne*について：研究ノート」(单著)『英米研究』（大阪大学英米学会）第36号：pp. 33-53. 平成24年3月.
 18. 「vP-raisingについて：Biberauer & Roberts (2005/2006) に対する短評」(单著)『英米研究』（大阪大学英米学会）第38号：pp. 21-30. 平成26年3月.
 19. 「*Beowulf*にみられる否定辞*ne*について」(单著). 『言葉のしんそう（深層・真相）：大庭幸男教授退職記念論文集』（英宝社）pp. 193-202. 平成27年3月.
 20. 「If = Thoughである可能性」(单著). 『待兼山論叢』（大阪大学文学会）第49号文化動態論編：pp. 1-8. 平成27年12月.
 21. 「“*There* + Modal + Subj + V”の構文について」(单著). 『ことばを編む：登田龍彦先

生退職記念論文集』（開拓社）pp. 82-89. 平成30年2月.

22. 「Witkoś (2004) において提案されている *there* 構文の分析について」(単著)『英米研究』(大阪大学英米学会) 第42号 : pp. 63-71. 平成30年3月.
23. 「Moulton (2004) “External arguments and gerunds” に対する短評」(単著). 『待兼山論叢』(大阪大学文学会) 第53号文化動態論編. 令和2年(予定).

翻訳

1. 『複合名詞の形態と意味』(ジュディス・リヴィ著; 杉浦茂夫氏と共訳). こびあん書房. 昭和58年7月.
2. 『5分間で言語学: 一口サイズのことばへの誘い』(リッカーソン&ヒルトン編; 上田功・大津智彦・早瀬尚子氏と共訳). ひつじ書房. 令和2年刊行予定.

研究発表・講演

1. 「シェイクスピアの作品におけるGerundについて」(単著). 名古屋大学英文学会. 昭和55年6月.
2. 「英語の命令文—後期近代英語の資料に基づく分析」(単著). 甲南女子大学英文学会研究発表会. 昭和57年1月.
3. 「動名詞の構造について」(単著). 近代英語協会第2回大会. 昭和60年5月.
4. 「否定命令文の変遷に関する一考察」(単著). 近代英語協会第13回大会シンポジウム. 平成8年5月.
5. 「空範疇と虚辞の*it*」(単著). 日本英語学会第8回大会ワークショップ. 平成12年11月.
6. 「古い時代の英語の文字について: 古英語を中心に」サイエンスカフェ. 平成24年8月4日.

辞書

1. 『英語正誤辞典』(荒木一雄編; 共著). 研究社出版. 昭和61年7月.
2. 『デイリーコンサイス和英辞典(第4版)』(荒木一雄編; 共著). 三省堂書店. 平成2年2月.
3. 『現代英文法辞典』(荒木一雄、安井稔編; 共著). 三省堂書店. 平成4年2月.
4. 『現代英語正誤辞典』(荒木一雄編; 共著). 研究社出版. 平成8年12月.
5. 『英語学用語辞典』(荒木一雄編; 共著). 三省堂書店. 平成11年1月.
6. 『『ワードバル和英辞典』(荒木一雄、天野政千代編; 共著). 小学館. 平成13年1月.

書評

1. “Tony Bex & Richard J. Watts (eds.): *Standard English: The Widening Debate*” (单著). 『近代英語研究』(近代英語協会) 第18号 : pp. 123-128. 平成14年 5 月.
2. “Olga Fischer, Ans van Kemenade, Willem Koopman & Wim van der Wurff (eds.): *The Syntax of Early English*” (单著). *IVY* (名古屋大学英文学会) Vol.35: pp. 135-140. 平成14年10月.
3. 「句構造規則の集大成 Ray Jackendoff, \bar{X} *Syntax: A Study of Phrase Structure*. Cambridge, Mass.: The MIT Press, 1977. xii+249pp. (单著). 『英文学研究 支部統合号』(日本英文学会) Vol. IX: pp. 217-220. 平成29年 1 月.

村田路人教授 略歴・研究業績

略歴

- | | |
|-----------|--|
| 1955年1月2日 | 大阪府大阪市に生まれる |
| 1973年3月 | 大阪府立天王寺高等学校卒業 |
| 1973年4月 | 大阪大学文学部入学 |
| 1977年3月 | 大阪大学文学部史学科（国史学専攻）卒業 |
| 1977年4月 | 大阪大学大学院文学研究科前期課程（史学国史学専攻）入学 |
| 1979年3月 | 大阪大学大学院文学研究科前期課程（史学国史学専攻）修了 |
| 1979年4月 | 大阪大学大学院文学研究科後期課程（史学国史学専攻）入学 |
| 1981年3月 | 大阪大学大学院文学研究科後期課程（史学国史学専攻）退学 |
| 1981年4月 | 大阪大学助手（文学部史学科国史学講座）に就任 |
| 1990年3月 | 大阪大学助手（文学部史学科国史学講座）を退職 |
| 1990年4月 | 京都橘女子大学専任講師（文学部歴史学科日本史コース）に就任 |
| 1992年4月 | 京都橘女子大学助教授（文学部歴史学科日本史コース）に昇任 |
| 1994年3月 | 大阪大学より博士（文学）の学位を授与される |
| 1996年3月 | 京都橘女子大学助教授（文学部歴史学科日本史コース）を退職 |
| 1996年4月 | 大阪大学助教授（文学部人文学科日本史講座日本史学専攻）に就任 |
| 1999年4月 | 大学院大学化により、大阪大学助教授（大学院文学研究科文化形態論専攻日本史講座）に配置換となる |
| 2002年4月 | 大阪大学教授（大学院文学研究科文化形態論専攻日本史講座）に昇任 |
| 2016年8月 | 大阪大学男女協働推進・社会学連携室員（副理事）に指名される |
| 2017年8月 | 大阪大学男女協働推進・社会学連携室員（副理事）を退任 |
| 2020年3月 | 大阪大学を定年退職 |

学会役員（代表のみ）

- | | |
|---------|-------------------------|
| 2012年6月 | 大阪歴史科学協議会委員長（2016年6月まで） |
| 2018年6月 | 大阪歴史学会代表委員（現在に至る） |

研究業績一覧

I 著書

A 単著

1. 『近世広域支配の研究』（大阪大学出版会、1995年11月、全374頁）
2. 『日本史リブレット93 近世の淀川治水』（山川出版社、2009年4月、全106頁）
3. 『近世畿内近国支配論』（塙書房、2019年2月、全442頁）

B 編著

1. 村田路人編『三浦家文書の調査と研究—近世後期北河内の医師三浦蘭阪蒐集史料—』（大阪大学大学院文学研究科日本史研究室・枚方市教育委員会、2007年3月、全462頁）

C 共編著

1. 豊能町史編纂委員会編『豊能町史』史料編（豊能町、1984年8月、全843頁）
2. 豊能町史編纂委員会編『豊能町史』本文編（豊能町、1987年11月、全990頁）
3. 大阪大学文学部創立50周年記念写真集編集委員会編『大阪大学文学部50年の歩み』（大阪大学文学部創立50周年記念事業実行委員会、1998年10月、全156頁）
4. 藤本篤監修『江戸時代人づくり風土記27・49大阪 見る・読む・調べる 大阪の歴史力』（農山漁村文化協会 2000年3月、全636頁）
5. 適塾記念会編『適塾アーカイブ 貴重資料52選』（大阪大学出版会、2002年11月、全42頁）
6. 産経新聞大阪本社編『浪華の書家五十人展 併催 緒方洪庵と適塾生の書』（産経新聞大阪本社、2004年1月、全161頁）
※併催展「緒方洪庵と適塾生の書」（120-154頁）の監修を担当。
7. 大阪狭山市史編さん委員会・大阪狭山市立郷土資料館編『大阪狭山市史』第五巻 史料編狭山池（大阪狭山市役所、2005年3月、全904頁）
8. 枚方市史編纂委員会編『楽しく学ぶ枚方の歴史』（枚方市教育委員会、2006年3月、全79頁）
9. 今井修平・村田路人編『街道の日本史33 大坂—摂津・河内・和泉—』（吉川弘文館、2006年7月、全278頁）
10. 夜久野町史編集委員会編『夜久野町史』第三巻資料編Ⅱ（福知山市、2008年3月、全610頁）
11. 豊中市史編さん委員会編『新修豊中市史』第一巻通史一（豊中市、2009年2月、全980頁、ほかに付図あり）

12. 大阪狭山市史編さん委員会、大阪狭山市教育委員会教育部社会教育・スポーツ振興グループ市史編さん担当編『大阪狭山市史』第三巻 史料編近世（大阪狭山市役所、2010年3月、全858頁）
13. 適塾記念会緒方洪庵全集編集委員会編『緒方洪庵全集』第一巻 扶氏経験遺訓 上（大阪大学出版会、2010年11月、全426頁）
14. 適塾記念会緒方洪庵全集編集委員会編『緒方洪庵全集』第二巻 扶氏経験遺訓 下（大阪大学出版会、2010年11月、全420頁）
15. 大阪大学適塾記念センター・適塾記念会編『大阪大学創立80周年にあたって 継承する適塾の精神』（大阪大学適塾記念センター・適塾記念会、2011年12月、全28頁）
16. 大阪狭山市史編さん委員会、大阪狭山市教育委員会教育部歴史文化グループ市史編さん担当編『大阪狭山市史 第一巻 本文編通史』（大阪狭山市役所、2014年3月、全823頁）
17. 枚方市史編纂委員会編『新版 郷土枚方の歴史』（枚方市教育委員会、2014年3月、全359頁）
18. 適塾記念会緒方洪庵全集編集委員会編『緒方洪庵全集』第四巻 日記 書状（その一）（大阪大学出版会、2016年3月、全306頁）
19. 村田路人・高橋京子監修、松永和浩、東野将伸、清水香穂、高浦（島田）佳代子編『大和国宇陀郡松山町森野家文書一 成巻文書—森野吉野葛本舗・森野旧薬園伝来史料—』（大阪大学適塾記念センター、2016年3月、全368頁）
20. 茨木市史編さん委員会編『新修茨木市史』第二巻 通史編Ⅱ 近世（茨木市、2016年7月、全902頁）
21. 摂津市史編さん委員会編『ふるさとを知ろう 摂津市の歴史』（摂津市、2016年12月、全47頁）
22. 適塾記念センター編『新版 緒方洪庵と適塾』（大阪大学出版会、2019年3月、全89頁）

D 共著

1. 脇田修編『近世の寝屋川』（寝屋川市教育委員会、1982年3月）
2. 新修大阪市史編纂委員会編『新修大阪市史』第4巻（大阪市、1990年3月）
3. 後藤靖・田端泰子編『洛東探訪—山科の歴史と文化—』（淡交社、1992年10月）
4. 京都橘女子大学女性歴史文化研究所編『枚方の女性史 伝えたい想い』（枚方市、1997年3月）
5. 羽曳野市史編纂委員会編『羽曳野市史』第二巻本文編2（羽曳野市、1998年3月）
6. 脇田修・大山喬平編『日本史B』（実教出版、2004年1月）

7. 平野区誌編集委員会編『平野区誌』（平野区誌刊行委員会、2005年5月）
8. 脇田修・大山喬平編『日本史B 新訂版』（実教出版、2008年1月）
9. 高杉英一・阿部武司・菅真城編著『大阪大学の歴史』（大阪大学出版会、2009年3月）
10. 脇田修・大山喬平編『日本史B』（実教出版、2014年1月）
11. 脇田修・大山喬平編『日本史B 新訂版』（実教出版、2018年1月）

II 論文

1. 「近世摂河における河川支配の実態と性格—堤奉行と川奉行を通して—」
（『ヒストリア』第85号、56-76頁、1979年12月）
2. 「摂河における国役普請体制の展開」
（脇田修編著『近世大坂地域の史的分析』御茶の水書房、61-118頁、1980年5月）
3. 「一七世紀大坂の河川支配—川筋維持についての負担地域原則を中心に—」
（『ヒストリア』第99号、44-73頁、1983年6月）
4. 「近世大坂の川浚制度—一八世紀を中心に—」
（梅溪昇教授退官記念論文集刊行会編『日本近代の成立と展開』思文閣出版、195-226頁、1984年4月）
5. 「宝永元年大和川付替手伝普請について」
（『待兼山論叢』第20号史学篇、21-44頁、1986年12月）
6. 「近世前半期の地域と役—治水・水利普請の検討を通じて—」
（『日本史研究』第320号、55-83頁、1989年4月）
7. 「用聞の諸機能と近世的支配の特質」
（『京都橘女子大学研究紀要』第17号、45-74頁、1990年12月）
8. 「役の実現機構と夫頭・用聞の役割」
（『日本史研究』第349号、1-30頁、1991年9月）
9. 「奉行所用達の諸機能について—堺奉行所川筋用達の分析を通して—」
（『花園史学』第12号、33-48頁、1991年11月）
10. 「近世畿内の幕府広域役—大坂城・蔵修復役を中心に—」
（『京都橘女子大学研究紀要』第20号、87-129頁、1993年12月）
11. 「摂河国役普請制度の再検討」
（大阪市史編纂所編『大阪の歴史』第41号、1-28頁、1994年3月）
12. 「近世前期の瀬田川浚普請」
（『琵琶湖博物館開設準備室研究調査報告』第8号、99-109頁、1996年3月）

13. 「代官郡触と幕府の畿内近国広域支配」
（『待兼山論叢』第31号史学篇、1-26頁、1997年12月）
14. 「畿内近国支配論について」
（『日本史研究』第428号、98-103頁、1998年4月）
15. 「享保の国分けと京都・大坂町奉行の代官支配」
（大阪大学文学部日本史研究室編『近世近代の地域と権力』清文堂出版、325-341頁、1998年12月）
16. 「近世の地域支配と触」
（『歴史評論』第587号、53-68頁、1999年3月）
17. 「Osaka as a Center of Regional Governance」(英訳：Kikuko Yamashita)
（James L. McClain、Wakita Osamu編『OSAKA The Merchants' Capital of Early Modern Japan』243-260頁、Cornell University Press、1999年）※18の英訳
18. 「大坂周辺地域の支配と大坂」
（脇田修、J.L.マクレイン編『国際フォーラム 近世の大坂』大阪大学出版会、63-83頁、2000年5月）
19. 「非領国地域における鳴物停止令—触伝達の側面から—」
（大阪市史編纂所編『大阪の歴史』第56号、1-36頁、2000年10月）
20. 「勘定奉行神尾春央巡見先触の伝達をめぐって—撰津・河内の事例から—」
（『枚方市史年報』第4号、1-18頁、2001年3月）
21. 「元禄期における伏見・堺両奉行の一時廃止と幕府の遠国奉行政策」
（『大阪大学大学院文学研究科紀要』第43巻、1-25頁、2003年3月）
22. 「幕府上方支配機構の再編」
（大石学編『日本の時代史16 享保改革と社会変容』吉川弘文館、120-146頁、2003年9月）
23. 「近世諸権力の位相」
（歴史学研究会・日本史研究会編『日本史講座』第6巻 近世社会論 東京大学出版会、67-98頁、2005年2月）
24. 「寛永後期北河内地域の触と触留帳—「河内国交野郡藤坂村寛永十六～二十年触留帳」の紹介を中心に—」
（『枚方市史年報』第8号、1-18頁、2005年3月）
25. 「宝永元年の大和川付替えと大坂」
（『水の都市文化—大阪市立大学大学院文学研究科COE／重点研究共催シンポジウム報

- 告書一』大阪市立大学大学院文学研究科都市文化研究センター、83-98頁、2006年3月)
26. 「一七世紀における堺奉行の「万事仕置」権と触伝達」
 (『畿内譜代大名岸和田藩の総合的研究』〔平成14～平成17年度科学研究費補助金基盤研究(B)(1)研究成果報告書、研究代表者藤本清二郎、49-62頁、2006年3月])
 27. 「江戸時代の大坂城—どのようにして城は維持されたのか—」
 (懐徳堂記念会編『懐徳堂ライブラリー7 大坂・近畿の城と町』和泉書院、69-108頁、2007年5月)
 28. 「日本近世における政治的重要人物の死と国家・社会—触穢令および鳴物停止令に関する研究の成果と課題—」
 (江川温編『死者の葬送と記念に関する比較文明史—親族・近隣社会・国家—』19-33頁、2007年6月)
 29. 「The death of key political figures and the State and society in early modern Japan —Research achievements and themes relating to the non-contact with impurity and ban on musical instruments decrees—」
 (Atsushi EGAWA編『Comparative History of the Civilizations Concerning Funerals and Commemoration of the Dead —Relatives, Neighboring Societies and States—』27-48頁、2007年6月) ※28の英訳
 30. 「宝永元年大和川付け替えの歴史的意義」
 (大和川水系ミュージアムネットワーク編『大和川付け替え三〇〇年—その歴史と意義を考える—』雄山閣、27-53頁、2007年11月)
 31. 「一七世紀摂津・河内における治水政策と堤外地土地利用規制」
 (『枚方市史年報』第11号、1-14頁、2008年4月)
 32. 「近世畿内近国支配論を振り返って—広域支配研究の軌跡—」
 (『歴史科学』第192号、1-14頁、2008年5月)
 33. 「日本近世の地域支配—大坂町奉行による摂津・河内支配を手がかりに—」
 (秋田茂・桃木至朗編『歴史学のフロンティア—地域から問い直す国民国家史観—』大阪大学出版会、139-165頁、2008年10月)
 34. 「種痘事業の展開と大坂町奉行所」
 (『適塾』第42号、79-84頁、2009年12月)
 35. 「堤外地政策からみた元禄・宝永期における摂河治水政策の転換」
 (『大阪大学大学院文学研究科紀要』第50巻、1-28頁、2010年3月)
 36. 「享保初年における幕府派遣役人の上方川筋見分・普請と堤外地政策」

- (『枚方市史年報』第13号、1-26頁、2010年4月)
37. 「安政五年のコレラ流行と医療行政」
(『適塾』第43号、55-61頁、2010年12月)
38. 「近世淀川の治水と大坂」
(『シンポジウム「都市と河川のかかわりをさぐる」報告書』大阪歴史博物館、18-32頁、2011年3月)
39. 「享保改革期における京都代官玉虫左兵衛の堤外地開発事業」
(『大阪商業大学商業史博物館紀要』第12号、1-19頁、2011年10月)
40. 「幕末期大坂周辺地域の触伝達—將軍家定死去時の「慎み」関係触を例に一」
(『適塾』第44号、57-63頁、2011年12月)
41. 「近世治水史研究の新たな試み—堤外地政策から治水をみる—」
(『歴史科学』第209号、45-62頁、2012年5月)
42. 「大和川付替の治水史的意義」
(『大阪商業大学商業史博物館紀要』第13号、59-67頁、105-111頁、2012年10月)
43. 「江戸時代の大和川治水と堺奉行所」
(堺都市政策研究所編『フォーラム堺学』第19集、堺都市政策研究所、45-83頁、2013年3月)
44. 「吉宗の政治」
(大津透・桜井英治・藤井讓治・吉田裕・李成市編『岩波講座日本歴史』第12巻近世3、岩波書店、1-34頁、2014年11月)
45. 「幕末期大坂地域と洪庵・適塾—種痘事業を中心に—」
(『適塾』第48号、116-127頁、2015年12月)
46. 「自治体史の叙述方法をめぐって」
(『和泉市史紀要第23集 第四回地域史惣寄合報告集「地域の全体史と現代」』和泉市教育委員会、23-32頁、2016年3月)
47. 「触の書き留められ方—触留帳論の試み—」
(『枚方市史年報』第20号、1-24頁、2018年3月)
48. 「幕末期における大坂町奉行所の広域支配と医療行政—種痘事業の検討から—」
(『幕末期における大坂・大坂城の軍事的役割と畿内・近国藩』〔平成26年～平成30年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書、研究代表者岩城卓二、77-86頁、2019年2月)
49. 「緒方洪庵と適塾」

(『適塾』第52号、21-43頁、2019年12月)

Ⅲ 史料編纂・史料紹介

1. 「鶴林寺文書および史料目録」
(『大阪大学文学部紀要』第20巻、1980年3月) ※共同執筆
2. 「臼井家文書」
(西日本文化協会編『福岡県史』近世史料編 福岡藩初期〔上〕、福岡県、(22)-(24)頁、62-112頁、1982年3月) ※共同執筆
3. 『寝屋川市役所所蔵九箇庄・点野村・秦村文書目録』(寝屋川市教育委員会、1982年3月)
※共同執筆
4. 『旧仁和寺村東家所蔵文書目録および解題』(寝屋川市教育委員会、1983年3月)
※共同執筆
5. 「文書目録」
(『蝸牛廬文庫目録』池田市教育委員会、1-59頁、1987年3月)
6. 『安土城・織田信長関連文書調査報告1 総見寺文書目録』(滋賀県教育委員会、1992年3月)
7. 豊中市史編さん委員会(通史部門)編『豊中市史資料集3 村明細帳(上)』(豊中市、1-163頁、1995年3月) ※共同執筆
8. 豊中市史編さん委員会(通史部門)編『豊中市史資料集4 村明細帳(下)』(豊中市、1-213頁、1996年3月) ※共同執筆
9. 「頓宮篤弼宛の緒方洪庵書状」
(『適塾』第40号、127-135頁、2007年12月) ※共同執筆
10. 「周防国都濃郡下松町飯田家文書七点の紹介—適塾生飯田柔平関係文書その他—」
(『適塾』第45号、93-107頁、2012年12月)
11. 大阪大学会沢正志斎書簡研究会編『会沢正志斎書簡集』(思文閣出版、1-348頁、2016年3月) ※大阪大学会沢正志斎書簡研究会の一人として翻刻を担当。
12. 「〈史料〉触留帳・触写帳と万留帳」
(摂津市総務部市史編さん室編『新修摂津市史 史料と研究』第2号、摂津市、1-184頁、2016年3月) ※史料の翻刻(1-166頁)および解説「近世畿内近国地域の支配の特質と触留帳・触写帳・万留帳」(167-184頁)。
13. 『豊中市文書館史料集1 麻田藩豊嶋郷大庄屋日記』(豊中市、i-vii頁、1-107頁、2017年3月) ※史料翻刻の監修および「『豊中市文書館史料集』の刊行を喜ぶ」(i-iii頁)。

IV 学界動向・書評紹介

1. 「新刊紹介 『和歌山県史』 近世史料三」
（『ヒストリア』 第94号、80-82頁、1982年3月）
2. 「1983年の歴史学界一回顧と展望」（『史学雑誌』 第93編第5号、1984年5月）
※近世部分22項のうち第3項～第7項の5項分を執筆
3. 「幕藩制国家と国郡制」
（村上直編『日本近世史研究事典』 東京堂出版、12-13頁、1989年6月）
4. 「新刊紹介 スーザン・ハンレー著、指昭博訳『江戸時代の遺産－庶民の生活文化』」
（『日本史研究』 第346号、83-85頁、1991年6月）
5. 「書評 高木昭作『日本近世国家史の研究』」
（『日本史研究』 363号、80-88頁、1992年11月）
6. 「1993年の歴史学界一回顧と展望」（『史学雑誌』 第103編第5号、1994年5月）
※近世部分13項のうち第3項後半部を執筆
7. 「書評 塚田孝・吉田伸之・脇田修編『身分的周縁』」
（『京都市報』 第1655号、1994年11月20日紙面）
8. 「書評 水本邦彦『近世の郷村自治と行政』」
（『歴史学研究』 第681号、50-52頁、1996年2月）
9. 「新刊紹介 伊藤安男『治水思想の風土—近世から現代へ—』」
（『日本史研究』 第402号、164頁、1996年2月）
10. 「書評 塚田孝『近世の都市社会史—大坂を中心に—』」
（『歴史科学』 第149号、35-40頁、1997年6月）
11. 「1997年の歴史学界一回顧と展望」（『史学雑誌』 第107編第5号、1998年5月）
※近世部分14項のうち第3項前半部を執筆
12. 「書評 藤本清二郎『近世賤民制と地域社会—和泉国の歴史像—』」
（『日本史研究』 第443号、54-60頁、1999年7月）
13. 「書評 杉本史子『領域支配の展開と近世』」
（『日本歴史』 第633号、116-118頁、2001年2月）
14. 「第10号批判 『特集 伝統都市と身分的周縁』を読んで」
（『年報都市史研究』 第11号、152-153頁、2003年10月）
15. 「小倉宗『江戸幕府上方軍事機構の構造と特質』報告批判」
（『日本史研究』 第596号、42-46頁、2012年4月）
16. 「2011年の歴史学界一回顧と展望」（『史学雑誌』 第121編第5号、2012年5月）

※「一四 美術」を除く近世部分（109-145頁）の編集を藪田貫とともにに行い、「総論」（109-111頁）を藪田貫と共同で執筆

17. 「書評 熊谷光子著『畿内・近国の旗本知行と在地代官』」
（『歴史科学』第222号、24-32頁、2015年11月）
18. 「書評 梅溪昇著『緒方洪庵』」
（『赤旗』2016年5月15日紙面）
19. 「「地域の歴史へのアプローチ」の多様性—『LINK』第一〇号を読んで—」
（『LINK』第11号、192-197頁、2019年12月）

V その他

1. 『日本歴史地名大系第28巻 大阪府の地名』（平凡社、1986年2月）
※大阪市平野区の一部および豊能郡豊能町の地名を執筆
2. 「近世大坂の川と川浚え」
（『月刊大建協』第41巻第6号、大阪建設業協会、1988年6月）
3. 「近世大阪災害年表」
（大阪市史編纂所編『大阪の歴史』第27号、88-104頁、1989年3月）
4. 「旧三条街道と木食養阿上人」
（吉田晶編『歴史の道・再発見』第4巻 貢納から天下の台所まで フォーラム・A、1994年1月）
5. 「江戸時代の国役と村々」
（『広報とよなか』第583号、1998年11月）
6. 「国役普請と普請の請負人」
（『広報とよなか』第584号、1998年12月）
7. 「適塾の教育」（統計研究会編『学際』第8号、構造計画研究所、74-77頁、2003年4月）
8. 「古文書の読み方」（『適塾』第36号、66-72頁、2003年12月）
9. 「夜久野町史編纂事業と古文書調査（一）」
（『やくの町史編纂だより』第14号、2003年12月）
10. 「夜久野町史編纂事業と古文書調査（二）」
（『やくの町史編纂だより』第15号、2004年1月）
11. 「堤外地政策からみた近世治水史」
（『日本歴史』第761号、19-21頁、2011年10月）
12. 「河村瑞賢の治水事業」（『学会会報』第894号、46-51頁、2012年5月）

13. 「解説」
(アン・ジャネット著、廣川和花・木曾明子訳『種痘伝来—日本の〈開国〉と知の国際ネットワーク—』、205-213頁、岩波書店、2013年12月) ※廣川和花との共同執筆
14. 「主題学習 近世の学問の流れ」(『日本史B 教授用指導書』、177頁、実教出版、2014年)
15. 「The History and Spirit of Osaka」
(『OSAKA UNIVERSITY PROSPECTUS』2014、6-7頁、Osaka University、2014年3月)
16. 「『非領国』と広域支配」
(『愛知県史のしおり』資料編22近世8領主2、愛知県総務部法務文書課県史編さん室、4-7頁、2015年3月)
17. 摂津市史編さん委員会「『新修摂津市史』の編纂に向けて—『摂津市史』(一九七七年刊)の検討を手がかりに—」
(摂津市総務部市史編さん室編『新修摂津市史 史料と研究』第1号、2015年3月)
※ 「はじめに」(3-4頁)、「一『摂津市史』の全体構成とその特徴および問題点」(5-8頁)を執筆。
18. 「大阪歴史科学協議会創立五〇周年にあたって」
(『歴史科学』第220・221合併号 創立50周年記念特集号、ii - iii頁、2015年5月)
19. 「「予防を重視した治水家」河村瑞賢—貞享期畿内河川整備事業から—」
(『土木学会誌』104号、50-51頁、2019年12月)

和田章男教授 略歴・研究業績

■略歴

【学歴】

昭和49年4月	大阪外国語大学外国語学部フランス語学科 入学
昭和53年3月	同大学同学部同学科 卒業
昭和53年4月	大阪大学大学院文学研究科前期課程 入学
昭和55年3月	同大学大学院同研究科同課程 修了
昭和55年4月	大阪大学大学院文学研究科博士後期課程 入学
昭和57年10月	パリ・ソルボンヌ大学 留学
昭和61年2月	パリ・ソルボンヌ大学第3課程博士（文学）号取得
昭和61年3月	大阪大学大学院文学研究科博士後期課程 単位修得退学

【職歴】

昭和61年4月	大阪大学文学部助手
昭和62年4月	大阪大学言語文化部助手
昭和63年2月	大阪大学言語文化部講師
平成2年7月	大阪大学言語文化部助教授
平成5年4月	大阪大学文学部助教授
平成11年4月	大阪大学大学院文学研究科助教授
平成16年4月	大阪大学大学院文学研究科教授
令和2年3月	大阪大学大学院文学研究科定年退職

■研究業績

【単著】

1. « L'évolution de "Combray" depuis l'automne 1909 », 第3課程博士論文（2巻），パリ・ソルボンヌ（第4）大学，1986年2月，第1巻（本論）261頁，第2巻（草稿転写）146頁
2. 『フランス表象文化史 — 美のモニュメント』，大阪大学出版会（「阪大リーヴル」），2010年9月，257頁.
3. *La création romanesque de Proust : la genèse de « Combray »*, Honoré Champion, 2012年9月, 204頁.

4. 『プルースト 受容と創造』, 大阪大学出版会, 2020年 (出版予定), 385頁.

【共著】

1. 『異邦人の見た近代日本』 (「ピエール・ロチ 『お菊さん』 — 日本イメージ形成の物語」), 懐徳堂ライブラリー 3, 1999年10月, pp. 1-31.
2. 『エクリチュールの冒険 — 新編・フランス文学史』, 大阪大学出版会, 2003年12月.
3. 『文学作品が生れるとき — 生成のフランス文学』 (「プルースト草稿研究の基礎と実践」 pp. 399-422), 京都大学学術出版会, 2010年10月.
4. *Comment naît une œuvre littéraire ? Brouillons, contextes culturels, évolutions thématiques*, (« La formation des noms de personnages dans la genèse de *À la recherche du temps perdu* », pp. 233-243), Honoré Champion, 2011年 3月.
5. 『西洋の文学 — 理解と鑑賞 —』 (「書簡体小説と視点」 pp. 56-66, 「スタンダール 『赤と黒』」 pp. 193-203), 大阪大学出版会, 2011年10月.
6. *Proust aux brouillons* (« Approche génétique des épisodes du théâtre dans *À la recherche du temps perdu* », pp. 269-284), Brepols, coll. « Le Champ proustien », 2011年12月.
7. *Proust face à l'héritage du XIX^e siècle, Tradition et métamorphose* (« Proust face à l'histoire de la critique sur Flaubert », pp. 51-59), Presses Sorbonne Nouvelle, 2012年 6月.
8. *Balzac et allii, génétiques croisées. Histoire d'éditions* (« Proust et Balzac : la méthode de travail des deux écrivains », pp. 1-7), <http://Balzac.univ-paris-didrot.fr/balzacetallii.html>, 2012年11月.
9. *Proust et Alain-Fournier. La transgression des genres 1913-1914* (« Illiers dans la genèse de « Combray » : la photographie et la mémoire », pp. 27-35), Honoré Champion, 2017年 3月.
10. *Musiques de Proust* (« Proust et la critique wagnérienne »), Hermann, 2020年 (出版予定).

【編集】

1. 『固有名詞調査に基づくプルースト書簡集の総合的研究』 (共編), 科学研究費共同研究報告書, 1998年 3月.
2. *Index général de la Correspondance de Marcel Proust* (共編), 京都大学学術出版会,

1998年10月.

3. 『フランス文学小事典』(共編), 朝日出版社, 2007年3月.
4. *Index général des Cahiers de brouillon de Marcel Proust* (単編), Osaka University (科学研究費成果報告書), 2009年3月, 124頁.
5. Marcel Proust, *Cahier 26, Cahiers 1 à 75 de la Bibliothèque nationale de France* (共編), Brepols, 2010.
6. 『フランス文学小事典』増補改訂版(共編), 朝日出版社, 2020年3月.

【論文】

1. Le changement de point de vue dans *À la recherche du temps perdu*, *GALLIA*, n° 20, 1981年3月, pp. 43-52.
2. 「『失われた時を求めて』における glissement の機能」, *GALLIA*, n° 21-22, 1982年3月, pp. 342-352.
3. « La transformation de la composition dans la genèse de *À la recherche du temps perdu* : du *Contre Sainte-Beuve* au *Temps retrouvé* », *Études de langue et littérature françaises*, n° 50, 1987年3月, pp. 112-126.
4. « La genèse de l' "après-midi du dimanche" : le "repas" et l' "arrière-cuisine" », *Bulletin d'informations proustiennes*, n° 18, 1987, pp. 7-9.
5. « La genèse de Roussainville et de Montjouvain : la sexualité et la mort », 『言語文化研究』XIV, 1988年2月, pp. 283-298.
6. « La dactylographie problématique de "Combray", *Equinoxe*, n° 2, 1988, p. 155-179.
7. « La création romanesque de Proust : étude génétique sur la première apparition de Gilberte », *Études de langue et littérature françaises*, n° 54, 1989年3月, pp. 126-140.
8. 「プルーストの小説創造 — 「劇場」の場面の生成過程」, 『言語文化研究』XVII, 1991年2月, pp. 333-352.
9. « La "fille de cuisine" et le "voyage à Padoue" dans la genèse de *À la recherche du temps perdu* », *GALLIA*, n° 31, 1992年3月, pp. 275-283.
10. 「モーパッサン再考」, 『流域』36号, 1994年, pp. 32-38.
11. 「『失われた時を求めて』の創作過程におけるゲルマント夫人像の変遷」, *GALLIA*, n° 34, 1995年3月, pp. 51-60.
12. 「プルースト最後の評論『ボードレールについて』」, *GALLIA*, n° 35, 1996年3月, pp. 59-67.

13. 「プルーストにおける批評と創造 — ベルゴット導入場面に見られる実在の作家たち」
GALLIA, n° 37, 1998年3月, pp. 33-40.
14. « Chronologie de l'écriture proustienne (1909-1911) », *Bulletin d'informations proustiennes*, n° 29, 1998年12月, pp. 41-65.
15. 「フランス自伝文学の比較研究の試み」, 『大阪大学文学部紀要』, 第39巻, 1999年3月, pp. 21-53.
16. « La naissance de Bergotte et quelques écrivains réels dans la genèse de *À la recherche du temps perdu* », *Equinoxe*, n° 16, 1999年7月, pp. 123-131.
17. 「ピエール・ロチ『お菊さん』— 日本イメージ形成の物語」, 『異邦人の見た近代日本』, 懐徳堂ライブラリー 3, 1999年10月, pp. 1-31.
18. 「『サント=ブーヴに反論する』における知性の問題 — 批評と創造のはざままで —」, 『待兼山論叢』, 第33号「文学編」, 1999年12月, pp. 1-12.
19. 「ジャン=ジャック・ルソー『告白』における自然描写と「私」— 季節、時間、年齢 —」, 『自然のなかの人間』, 大阪大学文学研究科共同研究報告書, 2001年2月, pp. 129-140.
20. 「プルーストの文学的・芸術的教養 — 『プルースト書簡集』作品別および作者別索引に基づく統計的分析の試み —」, 『大阪大学大学院文学研究科紀要』, 第41巻, 2001年3月, pp. 51-71.
21. 「『失われた時を求めて』におけるコンプレのトポグラフィー — 「サン=ジャック通り」をめぐって —」, *GALLIA*, n° 41, 2002年3月, pp. 55-62.
22. 「アラン=フルニエ『グラン・モーヌ』における「失われた時」と「失われた場」」, 『大阪大学大学院文学研究科紀要』, 第42巻, 2002年3月, pp. 31-52.
23. 「プルーストとオランダ絵画」, 『大阪大学大学院文学研究科紀要』, 第44巻, 2004年3月, pp. 39-78.
24. « Proust et la Normandie baudelairienne », *Bulletin Marcel Proust*, n° 54, 2004年12月, pp. 115-125.
25. 「ジャン・ジオノの「自然」— 環境文学の誕生」, 『シュンボシオン — 高岡幸一教授退職記念論文集』, 朝日出版社, 2006年3月, pp. 295-304.
26. 「プルーストとネルヴァル批評」, 『大阪大学大学院文学研究科紀要』, 第47巻, 2007年3月, pp. 27-45.
27. « Proust et le paysage de Camille Corot », *Marcel Proust 6, Lettres Moderne Minard*, 2007年9月, pp. 121-132.
28. 「20世紀フランス文学における旅とエクリチュール — 「旅行記」の終焉と「旅行小説」

- の興隆 一], 『テキストの生理学』(柏木隆雄教授退職記念論文集), 朝日出版社, 2008年2月, pp. 543-554.
29. « Proust et Leconte de Lisle : un autre poète dans le *Contre Sainte-Beuve* », *GALLIA*, n° 47, 2008年3月, pp. 69-76.
30. 「生成研究の方法と課題 — プルーストを中心に—」, 『テキストの生成と変容』, 大阪大学大学院文学研究科広域文化表現論講座共同研究・研究成果報告書, 2008年3月, pp. 13-18.
31. 「ジャン・ジオノと環境文学 — 『世界の歌』を中心に —」, *Art and communication*, 「芸術とコミュニケーションに関する実践的研究」研究報告書, 2009年3月, pp. 82-87.
32. « La formation des noms de personnages dans la genèse de *À la recherche du temps perdu* », *Comment naît une œuvre littéraire ? Brouillons, contextes culturels, évolutions thématiques*, Honoré Champion, 2011年3月, pp. 233-243.
33. 「書簡体小説と視点」, 『西洋文学 — 理解と鑑賞 —』, 大阪大学出版会, 2011年10月, pp. 56-66.
34. 「スタンダール『赤と黒』」, 『西洋文学 — 理解と鑑賞 —』, 大阪大学出版会, 2011年10月, pp. 193-203.
35. « Approche génétique des épisodes du théâtre dans *À la recherche du temps perdu* », *Proust aux brouillons*, Brepols, coll. « Le Champ proustien », 2011年12月, pp. 269-284.
36. « Proust face à l'histoire de la critique sur Flaubert », *Proust face à l'héritage du XIX^e siècle, Tradition et métamorphose*, Presses Sorbonne Nouvelle, 2012年6月, pp. 51-59.
37. « Proust et Balzac : la méthode de travail des deux écrivains », *Balzac et alii, génétiques croisées. Histoire d'éditions*, <http://Balzac.univ-paris-didrot.fr/balzacetallii.html>, 2012年11月, pp. 1-7.
38. 「プルーストと「ゴントール日記」」, *STELLA*, n° 31, 2012年12月, pp. 87-102.
39. « Les écrivains réels dans les Cahiers de Proust », *GALLIA*, n° 53, 2014年3月, pp. 41-50.
40. 「プルーストにおける写真と記憶 — コンブレーの生成過程におけるイリエ —」, *GALLIA*, n° 55, 2016年3月, pp. 95-103.
41. 「プルーストとショパン」, *STELLA*, n° 35, 2016年12月, pp. 85-99.
42. « Illiers dans la genèse de « Combray » : la photographie et la mémoire », *Proust et Alain-Fournier. La transgression des genres 1913-1914*, Honoré Champion, 2017年3月, pp. 27-35.

43. 「プルーストとワーグナー受容 — 啓示としての『バルジファル』 —」, *STELLA*, n° 36, 2017年12月, pp. 85-99.
44. 「プルーストとモネの睡蓮画」, *STELLA*, n° 37, 2018年12月, pp. 193-211.
45. 「プルーストとベートーヴェン受容」, 『大阪大学大学院文学研究科紀要』, 第59巻, 2019年3月, pp. 91-124.
46. 「プルーストと『春の祭典』」, *STELLA*, n° 38, 2019年12月.
47. « Proust et la critique wagnérienne », *Musiques de Proust*, Hermann, 2020年(刊行予定).

【書評】

1. 「テキストの生成論的研究の今日的意味 — 吉井亮雄『アンドレ・ジッド「放蕩息子の帰宅」校訂版』, 『流域』, 第33号, 1992年12月, pp. 30-35.
2. « Kazuyoshi Yoshikawa, *Le Musée Proust* », *Bulletin Marcel Proust*, n° 49, 1999年12月, pp. 172-173.
3. 「松澤和宏編『バルザック、フローベール — 作品の生成と解釈の問題』」, 『cahier』, 第3号, 日本フランス語フランス文学会, 2009年3月, pp. 17-19.
4. 「小黒昌文『プルースト 芸術と土地』」, 『cahier』, 第6号, 日本フランス語フランス文学会, 2010年9月, pp. 32-33.
5. 「創造への誘い — 牛場暁夫『「失われた時を求めて」交響する小説』 —」, 『三田文学』, 第107号, 三田文学会, 2011年11月, pp. 288-289.
6. « Marcel Proust, *À la recherche du temps perdu*, traduction japonaise de Kazuyoshi Yoshikawa », *Bulletin Marcel Proust*, n° 62, 2012年12月, pp. 113-114.
7. 「吉川佳英子『「失われた時を求めて」と女性たち — サロン・芸術・セクシュアリティ』」, 『cahier』, 第18号, 日本フランス語フランス文学会, 2016年9月, pp. 27-28.
8. « Cécile Leblanc, *Proust écrivain de la musique : l'allégresse du compositeur* », *Bulletin d'informations proustiennes*, n° 48, 2018, pp. 189-191.

【翻訳】

1. ジュール・ルナール『怪鳥』, 『ジュール・ルナール全集』, 第4巻, 臨川書店, 1995年5月.
2. ジュール・ルナール『日記IV』(共訳), 『ジュール・ルナール全集』, 第14巻, 臨川書店, 1997年11月.
3. クローディーヌ・ケマール『「失われた時を求めて」冒頭部の三つの先行テキストをめぐっ

て — 『サント=ブーヴに反論する』の諸問題への新たなアプローチ, 『プルースト全集』別巻 (「プルースト研究/年譜」), 筑摩書房, 1999年4月, pp. 418-445.

【教科書】

1. 『新・フランス語文法』(共編著), 朝日出版社, 2003年4月.
2. 『レクチュールの冒険 — 新編・フランス文学選 —』(共編), 朝日出版社, 2005年4月.
3. 『新・フランス語文法 (改訂版)』(共編著), 朝日出版社, 2006年10月.
4. 『新・フランス語文法 (新訂版)』(共編著), 朝日出版社, 2013年1月.
5. 『新・フランス語文法 (三訂版)』(共編著), 朝日出版社, 2017年1月.

【エッセー・解説・報告】

1. 「プルーストの人類への遺産 — 「生成学」とは? —」, 『言文だより』, 大阪大学言語文化部, 1989年3月, pp. 52-54.
2. 「『怪鳥』の構成をめぐって」, 『ジュール・ルナール全集』, 第4巻月報, 臨川書店, 1995年5月.
3. 「大阪大学におけるフランス文学研究の傾向」, *GALLIA*, n° 40, 2001年3月, pp. 291-296.
4. 「プルースト研究と病 — 吉田さんの「遺産」 —」, 『仏文研究』吉田城先生追悼特別号, 2006年6月, pp. 389-393.
5. 「フランス文学小事典プロジェクト」, 『ソーシャルネットワーク型人文学教育の構築』大阪大学大学院文学研究科「魅力ある大学院教育」イニシアティヴ中間報告書, 2006年12月, pp. 44-45.
6. 「九州大学大学院人文科学研究院仏文学講座外部評価報告書」, 『九州大学大学院人文科学研究院学部評価報告書』, 九州大学大学院人文科学研究院自己点検・評価委員会, 2007年3月, pp. 38-39.
7. 「ロココ文化 — 美的生活の極み —」, 『18世紀ヴェルサイユ・クラヴサン音楽の美の世界』演奏会プログラム, 浜松市楽器博物館, 2007年12月, pp. 7-8.
8. 「私の留学時代 — 研究とバカンス —」, 『Bulletin』, 大阪大学大学院文学研究科・文学部国際交流センター室報第56号, 2008年3月, pp. 1-3.
9. 「いかに物語を語り始めるか — 小説の冒頭句 incipit をめぐって」(柏木隆雄教授退職記念シンポジウム報告)(執筆項目「総括」「1913年の二つの冒頭句」), *GALLIA*, n° 48, 2009年3月, pp. 81-84.

10. 「「遊び」の文化：ロココ」, 『デュフリ全集Ⅰ — 18世紀フランスの雅 —』, 浜松市楽器博物館, CD解説, 2011年9月, pp. 8-12.
11. 「ロココの女王 — 二人のアントワネット —」, 『デュフリ全集Ⅱ — 18世紀フランスの雅 —』, 浜松市楽器博物館, CD解説, 2011年11月, pp. 9-12.
12. 「フランス文学散歩の楽しみ」, 『理 (コトワリ)』, n° 35, 関西学院大学出版会, 2013年6月, pp. 2-3.
13. 「様々な「百周年」」, 『記念会だより』, n° 98, 懐徳堂記念会, 2014年4月.
14. 「2016年度立命館大学文学部・大学院文学研究科外部評価結果報告書」, 立命館大学文学部・大学院文学研究科外部評価委員会, 2017年3月, pp. 1-18.
15. 「国際シンポジウム『プルーストと受容の美学』報告」, *STELLA*, n° 38, 2019年12月.
16. 「国際シンポジウム『プルーストと受容の美学』報告」, *GALLIA*, n° 59, 2020年3月.

【口頭発表・講演】

1. 「『失われた時を求めて』における視点の変遷」, 大阪大学フランス語フランス文学会研究会 (大阪大学), 1980年7月12日.
2. 「『失われた時を求めて』の創造過程における構成の変化 — 『サント=ブーヴに反論する』から『見出された時』へ」, 日本フランス語フランス文学会春季大会 (立教大学), 1986年6月1日.
3. « *Du Contre Sainte-Beuve au Temps retrouvé* », 大阪大学フランス語フランス文学会研究会 (大阪大学), 1986年7月5日.
4. 「プルーストの創作法 — L' « *Après-midi du dimanche* »を中心に」, 大阪大学言語文化研究会 (大阪大学), 1987年7月1日.
5. 「プルーストの創作法 — 「劇場」の場面の生成と構成」, 関西プルースト研究会 (大阪大学), 1989年4月1日.
6. 「フランスにおける自伝の歴史的展開 — ルソーからサルトルまで」, 大阪大学フランス語フランス文学会研究会 (大阪大学), 1997年3月15日.
7. 「ピエール・ロチ『お菊さん』に見られる日本のイメージ」, 大阪大学文学部共同研究「近代における日本および日本人イメージの歴史的展開」 (大阪大学), 1997年12月.
8. シンポジウム「批評と創造のはざままで」, 大阪大学フランス語フランス文学会研究会 (大阪大学), 1998年3月7日.
9. シンポジウム「『プルースト書簡集』をめぐって — 作品別および作者別索引に基づく統計的分析の試み」, 日本プルースト研究会 (大阪大学), 1998年10月24日.

10. 「ジャン=ジャック・ルソー『告白』における自然」, 大阪大学文学研究科共同研究「自然の中の人間」(大阪大学), 2000年6月1日.
11. 「ネルヴァル受容史におけるプルーストの位置」, 関西ネルヴァル研究会(大手前大学), 2001年12月29日.
12. シンポジウム「フランス文学における「地方」— プルーストとイリエ=コンブレ—」, 大阪大学フランス語フランス文学会研究会(大阪大学), 2002年3月9日.
13. 「プルーストとモネの「睡蓮」展」, 関西プルースト研究会(京都大学), 2002年3月23日.
14. 「プルーストによるフェルメール発見」, 大阪大学フランス語フランス文学会研究会(大阪大学), 2003年3月8日.
15. « Proust et le paysage de Camille Corot », 国際シンポジウム « Proust sans frontières » (京都大学), 2003年9月18日.
16. 「プルーストとノルマンディー地方 — ボードレールとの関係を中心に」, 関西プルースト研究会(京都大学), 2004年4月3日.
17. « Proust et Leconte de Lisle : un autre poète dans le *Contre Sainte-Beuve* », 国際シンポジウム « Manuscrits de Proust : Approches critiques et problèmes éditoriaux » (東京日仏会館), 2004年7月16日.
18. 「ジャン・ジオノと環境文学 — 『世界の歌』を中心に」, フォーラム「環境と文学 — <環境文学 (Eco-Literature) > の可能性とその社会的効用」(大阪大学), 2005年3月18日.
19. 「プルースト草稿研究の現状と展望 — 『失われた時を求めて』劇場の場面の生成過程」, 科学研究費補助金(基盤研究(A))共同研究「フランス文学における総合的生成研究」研究会(京都大学), 2005年9月17日.
20. 「プルーストとネルヴァル批評」, 関西プルースト研究会(京都大学), 2006年3月25日.
21. 「20世紀における旅とエクリチュール — 「旅」と「旅行記」の終焉」, 日本フランス語フランス文学会春季大会ワークショップ「旅とエクリチュール」(慶応義塾大学), 2006年5月20日.
22. 「「生成研究」の方法と課題 — プルーストを中心に」, 大阪大学文学研究科広域文化表現論講座共同研究「テキストの生成と変容」(大阪大学), 2006年6月15日.
23. « La formation des noms de personnages dans la genèse de *À la recherche du temps perdu* », 国際シンポジウム « Comment naît une œuvre littéraire ? » — Brouillons, contextes culturels, évolutions thématiques — (関西日仏学館), 2007年12月7日.
24. 「プルーストとルコント・ド・リール — 『サント=ブーヴに反論する』におけるもう一人の詩人」, 関西プルースト研究会(京都大学), 2007年12月22日.

25. 「1913年の二つの冒頭句」, シンポジウム「いかに物語を語り始めるか — 小説の冒頭句 incipitをめぐる」, 大阪大学フランス語フランス文学会 (大阪大学), 2008年3月8日.
26. « L'apparition des noms réels dans les Cahiers de Proust », 国際シンポジウム« Proust en son temps : Contextes culturels d'une genèse romanesque » (東京日仏会館), 2009年4月18-19日.
27. 「エラスムス・ムンドゥスに見る知の拠点形成と国際交流」, コロキウム「アジアプログラムの意義と方法をめぐって」(神戸大学), 2009年7月14日.
28. 「プルースト草稿帳の作家たち — 統計的分析の試み」, 関西プルースト研究会 (京都大学), 2009年12月19日.
29. « Proust et Balzac : la méthode de travail des deux écrivains », 国際シンポジウム « Balzac *et alii*, génétiques croisées, Histoire d'éditions » (Université Paris-Diderot, Maison de Balzac), 2010年6月3-5日.
30. 「『印刷物の生成論』の先駆者プルースト」, 日本フランス語フランス文学会秋季大会ワークショップ「印刷物の生成論」(南山大学), 2010年10月17日.
31. « Proust et la critique flaubertienne », 国際シンポジウム « Proust face à l'héritage du XIX^e siècle : Filiations et ruptures » (関西日仏学館), 2010年11月20-21日.
32. « Proust et Leconte de Lisle », パリ第3大学ピエール・エドモン・ロベール教授セミナー講演 (パリ第3大学), 2011年3月11日.
33. 「ヒーローとモニュメント — 「個」の主張からナポレオン神話へ」, CAF (神戸国際会館), 2011年5月24日.
34. 「プルーストと『ゴンクールの日記』」, 関西プルースト研究会 (京都大学), 2011年10月1日.
35. « Les Goncourt dans les manuscrits de Proust », 国際シンポジウム « Proust, l'œuvre des manuscrits » (Salle Dussane, École normale supérieure et Petit Auditorium, Bibliothèque nationale de France), 2012年3月1-2日.
36. 「『スワン家のほうへ』生成研究の現状と課題 — 「コンプレー」を中心に」, 日本プルースト研究会 (国際基督教大学), 2013年6月1日.
37. « Illiers dans le genèse de "Combray" : la photographie et la mémoire », 国際シンポジウム « 1913 : la transgression des genres » (Illiers-Combray, salle Georges Billebault (Salle des Fêtes)), 2013年11月14-16日.
38. 「プルーストとショパン」, 関西プルースト研究会 (京都大学), 2014年3月29日.
39. 「フランス現代のモニュメント — 歴史との和解・世界との和解」, CAF (神戸国際会館),

2015年3月3日.

40. 「ブルーストとワーグナー受容」, 関西ブルースト研究会 (京都大学), 2016年10月8日.
41. « Proust et la critique wagnérienne », 国際シンポジウム « Proust et la critique » (Université de Kyoto), 2016年12月10-11日.
42. 「ブルーストとワーグナー批評」, 関西ブルースト研究会 (京都大学), 2017年4月1日.
43. 「パリが変わる! — パリ大改造と詩人ボードレール」, リーガクラブ講演会 (リーガロイヤル・ホテル「桐の間」), 2017年6月14日.
44. 「ヴェルサイユ宮殿を巡る — バロックからロココへ」, エコールドロイヤル「世界遺産 — 歴史と文化を巡る旅: フランス (1)」 (リーガロイヤル・ホテル「梅の間」), 2017年7月12日.
45. 「ナポレオン神話とモニュメント」, エコールドロイヤル「世界遺産 — 歴史と文化を巡る旅: フランス (2)」 (リーガロイヤル・ホテル「梅の間」), 2017年8月2日.
46. 「モダニズムの詩 — エッフェル塔とミラボー橋」, エコールドロイヤル「世界遺産 — 歴史と文化を巡る旅: フランス (3)」 (リーガロイヤル・ホテル「梅の間」), 2017年9月13日.
47. 「ブルーストとベートーヴェン受容」, 関西ブルースト研究会 (京都大学), 2018年3月31日.
48. 「文学と音楽が会おうとき — フランス人作家によるベートーヴェン受容」, 第9回大阪大学文学部・文学研究科同窓会講座 (大阪大学中之島センター), 2018年5月12日.
49. 「ブルーストとドビュッシー『ペレアスとメリザンド』」, 関西ブルースト研究会 (京都大学), 2018年12月22日.
50. « Proust et *Le Sacre du Printemps* », 国際シンポジウム « Proust et l'esthétique de la réception » (大阪大学), 2019年9月28-29日.
51. 「ブルーストと音楽受容 — 人間的な、あまりに人間的な —」, 最終講義 (大阪大学), 2020年2月19日.
52. 「記憶の作家ブルースト — 受容から創造へ —」, 大阪大学フランス語フランス文学会研究会 (大阪大学), 2020年3月7日.